FOCUS Next»

“ペイシェント・ファースト”を軸にスポーツ医学の進展をめざす

百瀬 能成 先生　百瀬整形外科スポーツクリニック 院長（長野県松本市）

長野県の中央部に位置する松本市で2021年に開業した百瀬整形外科スポーツクリニック。スポーツ医学の進展を視野に、メディカルフィットネス施設や全天候型人工芝フィールドを併設するなど、ユニークな運営を展開し、地域の活性化と住民の健康意識の向上に取り組んでいます。

クリニックに運動施設を併設し地域住民の健康づくりの拠点に

スポーツ医学の知見を地域住民に還元

長野県松本市は“健康寿命延伸都市”を宣言しています。百瀬整形外科スポーツクリニック院長の百瀬能成先生は、市を挙げて市民の健康増進に取り組む松本市において、スポーツ医学の知見を広く地域住民に還元する拠点になることをめざして開業しました。

「高齢者に多い運動器不安定症を含むロコモティブシンドロームやフレイルの改善には、スポーツ医学のリハビリテーションで行う体幹の強化や自重を使った筋力トレーニングが役立ちます。痛みを伴う疾患やケガが生じてから医療機関を受診するのではなく、子どもからお年寄りまで、普段から健康状態に意識を向けるきっかけを提供する施設をめざしました」と百瀬先生は説明します。

“ポストリハビリテーション”の場づくりへ

同クリニックの最大の特徴は、2階フロアに一般開放しているメディカルフィットネスと、2023年9月にクラウドファンディングを活用してオープンした全天候型の人工芝フィールドを敷地内に併設している点です。

メディカルフィットネスを併設した狙いは、同クリニックで急性期のリハビリテーションを終えた患者さんが疾患の再発予防のために継続的な運動習慣を身に付ける、またはスポーツのパフォーマンス向上を目的とした適切なトレーニングへと移行する“ポストリハビリテーション”の場づくりにあります。

現在、メディカルフィットネス利用者の7割は、けがや運動器の疾患により同クリニックを受診され、改善した元患者さんです。専門知識を持った健康運動指導士が利用者一人一人の身体機能を把握し、パーソナルトレーニングによる個別指導をしています。利用者は定期的にメディカルチェックを受けられることに加え、自身の健康状態や運動の成果をフィードバックしてもらえること、また階下のクリニックとの密な連携により安心感を得られることなどが、一般的なスポーツジムにはないメリットといえます。

一方、人工芝フィールドの開設は、スポーツなどでけがを負った方々のスムーズな競技復帰を専門的にサポートすることが第一の目的であり、競技復帰に向けてリハビリをする選手たちの動作を細かく確認するためには、クリニックに併設した広い運動スペースが必要だったといいます。地元のJリーグクラブのチームドクターを務める百瀬先生ならではの取り組みといえるでしょう。

「通常は痛みがとれて日常生活に支障がなくなれば治療を終えますが、患者さんの目標はさまざまです。特にスポーツ選手は一刻も早い競技復帰をめざしており、この人工芝フィールドでリハビリテーションやトレーニングを行うことで、当クリニックの医師、理学療法士やアスレチックトレーナーがその人の動作をチェックしながら、どの動きで痛みが発生するのか、どこまでのプレーなら問題ないかといった専門知識を生かしたサポートができます」と百瀬先生は話します。治療者として症例ごとの細かなデータを蓄積し、スポーツ医学の発展につなげていきたいと考えています。

整形外科のかかりつけ医のような存在に

同クリニックが掲げる理念は、患者さんを第一に考える“ペイシェント・ファースト”です。そこに込められた思いは、百瀬先生自身が勤務医時代に抱えていた葛藤から生まれました。「病院で勤務していた頃、必要な検査が必要なタイミングで実施できないたびに悔しい思いをしました。スポーツでけがをした患者さんにとって最も重要なのは、次の試合に出られるかどうかだったりするわけですが、その診断に

必須のMRI検査が病院の都合で1カ月待ちだったり、検査結果が出るのが試合後だったりということが多々ありました。そこで、サッカーでいうところの“プレイヤーズ・ファースト”ならぬ“ペイシェント・ファースト”を理念として、それを実現できる設備を整えたクリニックをつくるに至りました」

クリニック開設後は、地域住民が日常的に併設の運動施設を訪れる流れをつくることによって、患者さんの医療機関の受診に対するハードルを下げ、運動器の些細な違和感などに対して気軽に相談にのったり、高齢者にはロコモやフレイル予防のための運動指導や栄養指導を提供し、骨密度検査を促すなど、整形外科のかかりつけ医のような存在になることをめざしています。

ブレないリーダーシップで専門集団によるチーム医療を牽引

スポーツクリニックとして専門性の高い人員配置

スポーツ医学に特化した同クリニックのスタッフは、整形外科医の百瀬先生を筆頭に、理学療法士、アスレチックトレーナー、看護師、診療放射線技師、メディカルアシスタント、そしてメディカルフィットネス担当の健康運動指導士と、専門性の高い多職種で構成されています。それぞれの立場から見た患者さんに関する情報の交換を綿密に行い、手厚いサポート体制を敷くことがスタッフ全員の共通認識です。専門性の違いから、スタッフ間で議論が発生するような際、百瀬先生は常にクリニックの理念に立ち返るよう指導しています。「それぞれの思いがあればこそ意見が食い違う場面も生じますが、議論の視点は“ペイシェント・ファースト”かどうかを各自に問い掛けてもらっています」

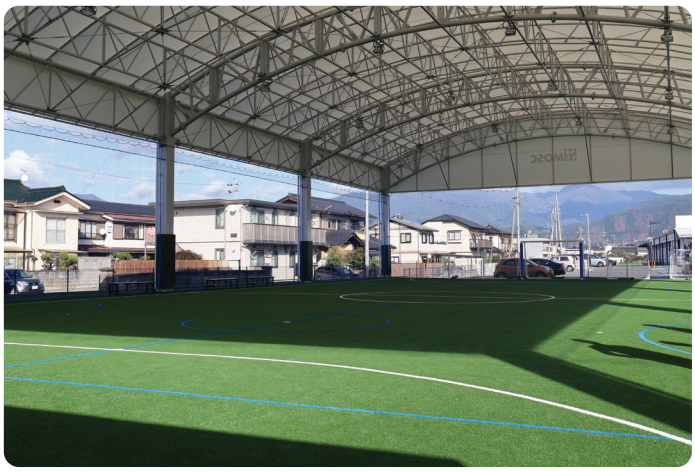
百瀬先生自身の診療スタンスはオープンマインドで、スタッフはもちろん、患者さんやスポーツ選手、関係者の意見をリスペクトして聞き入れる姿勢を持ちつつも、リーダーや医師としてブレないこと、さらには目の前の仕事を全力で楽しむことだといいます。自身がサッカー経験者としてチーム競技で学んだこと、公益財団法人日本サッカー協会のB級コーチライセンスを持つ指導者としての見識を、職場のチームビルディングに存分に生かしています。

地域活性と健康意識の向上を働き掛け

固定観念を持たず、その時々のニーズや状況に応じて臨機応変に対応することを重視している百瀬先生ですが、今後注力していくべき課題について次のように話します。

「開業して丸2年、オープンした人工芝フィールドで一般向けのイベントも行える体制が整いました。地域の活性化と併せて、地域のみなさんの健康意識を高めていくためにも、運動習慣であったり、食生活であったり、もっと自分の体に興味を持ってもらえるような催しを企画して、積極的に働き掛けていくことが必要だと考えています」。目標達成思考で次々に自らの思いを実現していく百瀬先生の地域貢献は、クリニックを拠点に多方面に広がる見込みです。

クリニック2階のメディカルフィットネスでは、健康運動指導士による1対1のパーソナルトレーニングが行われています。



クラウドファンディングにより、多くの支援者の協力を得てオープンしたばかりの全天候型の人工芝フィールド。地域のさまざまなイベントにも活用されています。

POINT

- 運動器不安定症など高齢者の整形外科疾患にスポーツ医学の知見を応用。
- メディカルフィットネスを併設し、“ポストリハビリテーション”の推進を図る。
- クリニック併設の全天候型人工芝フィールドで、スポーツ選手の早期の競技復帰を支援。
- 専門性の高いスタッフ間で“ペイシェント・ファースト”という理念の共有を徹底する。